

SBJ

vol.25

2014年6月23日発行

碩学舎ビジネス・ジャーナル
Sekigakusha Business Journal

碩学舎×Sカレ

1からの学生生活

大学生生活に潜む影響力を学生の視点から徹底解明!

関西学院大学 石淵順也ゼミ チーム SUN

坂田 葉・上田 将迪・中野 海地



碩学舎

目次

第1章 はじめに	P.2
1-1 執筆の経緯	
1-2 本書の特徴	
1-3 本書の構成	
第2章 影響力	P.3
2-1 大学生活の多様性	
2-2 影響力という観点	
2-3 コンセプトとして	
2-4 なぜ、影響力	
Column1 ~筆箱を通して学生生活を振り返る~	P.5
第3章 サークルにおける影響力	P.7
3-1 なぜ、サークル	
3-2 私たちの推測	
3-3 アンケート内容・結果	
3-4 結果を踏まえて	
Column2 ~大学生 三種の神器はこれだ~	P.9
第4章 勉強における影響力	P.11
4-1 私たちの推測	
4-2 アンケート内容・結果	
4-3 結果を踏まえて	
4-4 社会人との対比	
第5章 私たちの考え	P.13
5-1 私たちの提案	
5-2 おわりに	

第1章

はじめに

1-1 執筆の経緯

私たちは関西学院大学商学部、石淵ゼミの学生です。私たちのゼミではマーケティングリサーチを基にした新商品開発について学習しています。今回、ゼミの活動の一環として、Sカレ委員会が主催するビジネスプランコンテストに参加することになりました。数あるテーマの中で、私たちが今回この碩学舎様のテーマを選んだ理由は、この書籍のターゲットである高校生に大学の先輩として何かタメになるリアルな大学生活を伝えられるのではないかと考えたからです。

1-2 本書の特徴

本書では、まず学生を対象としたアンケートを行い、学生達の生の声を調査します。そして、その結果を基に、私たちの意見などを踏まえ、大学生活を有意義に過ごす方法を考えます。随所に大学生のリアルな意見が入っているため、読者にとって非常に魅力的なものになっています。

1-3 本書の構成

本書は6章から構成されています。次ページからの2章では、私たちがこの書籍を執筆するにあたって、まず考えたこと、そして、行き着いた「影響力」についての説明をします。3・4章では、それぞれ「サークル」「勉強」をテーマに学生を対象に行ったアンケート調査の結果から、学生の実態を見ていただき、今現在、大学生活を過ごしている学生の生の声を知ってもらいます。最後の5章では、それらの結果について考察し、大学生活を有意義に過ごすヒントを探します。その考察を基に私たちの考える大学生活を有意義に過ごす方法について述べたいと思います。

では、なぜ私たちが影響力に注目したのかを次章で見てください。



第2章

影響力

2-1 大学生活の多様性

今回私たちは碩学舎の方から「1からの学生生活」と名のついたweb書籍の内容、及び文章を作成する課題を与えられました。私たちはこの課題に対し、大学生活を上手に送る方法を記した本を作る必要があると感じ、書籍の方向性を決めていきました。書籍のターゲットは「これから大学生活を送る高校生」と設定されていたため、普遍的な内容である事も不可欠であるとししました。実際、碩学舎の方も学生に広くあてはまる内容の本を大学生の目線で書いて欲しいとのことでした。

本の方向性は明瞭であるものの、本の内容を詰めていく際に、私たちはいつもある1つの問題に直面していました。それは、大学生の生活が多様であり過ぎることです。つまり、すべての学生に当てはまるような内容にすることが非常に困難であったのです。そこで私たちは、自分達が大学生であることを活かし、大学生に関わる主な行動、サークル活動や勉強、アルバイトなど学生生活に関する様々なことから大学生の深層心理や普遍的にあてはまることを探っていきました。これは大学生の私たちだからこそ出来る事であり、今回の「大学生から見た学生生活を書く」という目的とマッチします。すると、その調査結果から見えてきたことは、「大学生は周りとの繋がりを非常に強く求めている」ということでした。人によってはこのことは一般社会にも当てはまることであり、大学生だからということは無いと考える人がいるかもしれませんが、しかし、調査において、大学生活における様々な行動は、友達を作りたい、一人でいたくない、集団の中にいる安心感を得たいなど、周りとの繋がりを求めるが故に行われていることがわかりました。このことは、一般社会よりも大学生活において如実に表れていると考えられます。

2-2 影響力という観点

そこで、大学生は周りに対し繋がりを非常に強く求めている=周りに影響を受けて行動を受けていると捉え、他人からの「影響力」により学生生活を考えてみては面白いのではないかと考えました。そして「影響力」というキーワードを軸にし、考えていくことに決めました。これは、実際にこれまで大学生活を過ごしてきた私たちの経験や、周りの友人などをみて導き出した現役大学生の私たちだからこそ出来る探索的調査方法であり、独自の観点と言えます。

2-3 コンセプトとして

私たちは、碩学舎の方から課題を頂いた時から、この本の役割として、これから大学で学生生活を始めようとしていらっしゃる方に後悔なく有意義に過せる方法を提示することであると考えていました。その「有意義に過ごせるようになる本」というコンセプトのもとに、私たちは、これからどのような学生生活を送るのか、様々な可能性を持つ皆様すべてに当てはまるキーワードを探しました。それが、前節で述べた私たちが考えた「影響力」です。では、なぜ影響力なのか、なぜ影響力について知ることで、学生生活を後悔なく有意義に過ごすということが達成されるのでしょうか。次節で詳しく紹介します。

2-4 なぜ、影響力

ではなぜ、影響力なのでしょう。それは大学生活とこれまでの学生生活に大きく違う点があるからです。大学生活はそれまでの学生生活とは違い、いわゆる「指標」となるものはありません。高校生活には時間割など、あらかじめ決められたカリキュラムがあり、それに従って生活していけばよいものでした。つまり、部活動や放課後の活動によって多少の差は出るものの、大きく見れば同じ学校に通う者はよく似た学生生活を過ごしていたということです。

しかし、大学には決められた時間割がないため、一概に大学生活といってもその内容は様々です。勉学に励む者、サークル活動に勤しむ者、就職活動を目標に過ごす者など、様々なタイプの学生がいます。

そのような中で、あらゆるタイプの学生たちが共通して唯一参考にするもの。それは周りの意見や行動です。初めて時間割を組むとき、またサークルに入るときなど、周りの友人や先輩がどういった意見を述べ、行動をするのか。それを参考にする大学生が数多くいます。また、これは入学時だけのことでなく、これから4年間学生生活を送る上で、あらゆる分岐点において必ず直面することでしょう。言い換えれば、学生生活で行う物事のほとんどが少なからず周りの影響を受け、また、自分自身もその影響を周りに与えるという連鎖が、大学生活では起こり続けているのです。

ここから、様々なタイプの学生生活がある中で、唯一全てのタイプの学生に関係し、また、どれほど学生に自身の学生生活の判断等を左右するのかなど未知である周りか

らの「影響力」にこそ、学生生活を有意義に過ごすヒントがあるのではないかと考えました。そこで、私たちはその影響力を受ける例として、異なった2方面から調査をすることにしました。その調査を2章に分けて紹介します。3章では、サークルに関する影響力、4章では勉強面に関する影響力をそれぞれ取り上げます。この2項の選択理由は、大学生活を送るうえで、すべての学生が経験すると考えられ、大学生活の多様性の問題もクリアでき、すべての学生に当てはまるものであると考えるからです。学習の面、遊びの面と対照的な二面からみるという理由からも2つをあげました。次章からは大学生活の行動に大きく関係する「影響力」をまず読者のみなさまに知っていただきます。影響力について知った上で、自らの決断をする。それにより、責任を持つことができ、大学生活を後悔なくより有意義に過ごすことができるのではないかと考え、調査、執筆を始めることにしました。

Column1

筆箱を通して て学生生活を 振り返る

パソコンを通しての授業など、時代の流れに伴い、デジタル化が進む学生生活。そんな中、いつになっても変わらず学生生活に欠かせないもの。それは筆箱ではないでしょうか。小学校、中学校、高校、大学とそれぞれに違う筆箱を使っている人も多いかと思います。そこで思い返してみてください。筆箱の大きさが徐々にスリムになっていませんか。実際、大学生の筆箱のサイズはペン5本が入る程度と、かなりコンパクトになっています。どういった遍歴を経て、筆箱がコンパクトになっていったのか、このコラムで振り返っていききたいと思います。

〈筆箱と初めての出会い~小学校編~〉

小学校入学、一番「自分のもの」が増える時期です。しかし、自分のものであるとはいえ、決して自由ではなく、赤と黒のボックス型筆箱を購入することが暗黙のルールとなっていました。図のように、鉛筆が取り出しやすいスタンドがついていたり、鉛筆削りがついていたり、今になってみるととても機能性に富んでいます。小窓には時間割を書き込む用紙がついており、親切心満載です。一時期はゾウに踏まれても壊れない筆箱なども流行しました。

可愛さに欠ける部分はありますが、少々乱暴に扱っても傷まず丈夫だったので、とても優秀な筆箱です。



〈筆箱最盛期~中学校・高校編~〉

筆箱が一番の盛り上がりを見せるのが、中学校・高校です。実にバラエティに富んだ筆箱が登場します。まずは中学校の筆箱から見ていきましょう。中学校の筆箱は、量を入れられることが重視されていました。この時期の筆箱を語るのに欠かせないのが、中学生男子のマストアイテム、某スポーツ用品メーカーのエナメルペンケースです。ほとんどの男子が一度は通る道なのかと思うほど、たくさんの人が使っていました。ロゴが入った前面のポケットには、分度器や三角定規を忍ばせている男子もちらほらいました。色も形も一緒の筆箱を使っている為、知らぬ間に友達のもの

入れ違うこともしばしば。中身を見ても、全員グリップがゲルタイプのシャーペンを使っているのを見分けもつかず、筆箱の汚れ具合などで判断するしかありませんでした。



一方、女子の筆箱もだんだんと大きくなっていきます。「いかにカラフルに可愛くノートをとるか」に全神経を注ぐ女子の筆箱は、色ペンだらけです。水性の太芯と細芯の一体型ペンが人気で、1本が70円ほどと値段がお手頃なこともあり、使い切れないほどの本数を持っている学生もたくさんいました。誰に見せるわけでもないのに、ノートをデコレーションすることに異常なほど注力し、シールなどを駆使して、自分だけのノートを完成させていきました。

そしてこの時期から筆箱が「お道具箱」へと変貌を遂げていきます。ホッチキスやはさみ、糊などの工作用品が筆箱に出現し始めるのです。普段使うことはないけれど、いざという時に筆箱からそれらが出てくると、それだけでこの子はできるという称号を獲得することができる。その為に女子は重い筆箱を持ち歩いていました。

高校になると筆箱の様子も変わってきます。ホッチキスがコンパクトになり、はさみがスティック型になり、糊も細く小さくなりました。これまで幅をとっていた工作用品がコンパクトになったため、筆箱のスリム化が起り始めます。それに伴い、ぬいぐるみ型筆箱も流行しました。ぬいぐるみ型筆箱とは、一見地面に伏せた形の普通のぬいぐるみに見えますが、背中にジップがついていて、そこから筆記用具を取り出すという、少し罪悪感を覚える筆箱のことで、外見の可愛さを重視した筆箱なので、機能性は抜群に悪く、大量に持ち歩いていたペンの選抜メンバーだけが、この筆箱に入ることができました。



〈筆箱の簡素化進む~大学生編~〉

大学生になると、更に筆箱のスリム化が進み、ノートを取るのに必要最低限のもののみ、持ち歩くようになります。筆箱はペンが5本入れば十分といったサイズで、USBを入れている学生も多くいます。大学生の使うシャープペンシルは、書くたびに芯が回り、細いラインが保てるタイプが主流となり、従来の大きなマスコットがついたキャラクターペンは徐々に姿を消していきます。

小学校から大学までの筆箱について振り返ってきましたが、いかがでしたか。このようにさまざまな遍歴を経て、筆箱はスリム化しているのです。人の数だけ筆箱は存在し、多種多様ではありますが、たどる道はほとんど同じと言えるでしょう。

あなたはこれからの人生、どのような筆箱を使いますか。



第3章

サークルに おける 影響力

3-1 私たちの推測

大学生活が始まると多くの学生が所属するサークル。その所属先を決めるのは、主に大学に入学した直後の4月から6月です。この時期は大学生活に慣れていない期間であり、おそらく、皆さん友達づくりに必死になっている頃でしょう。サークルは学生によっては大学生活の大きな構成要素となり得ます。大学生はこの短い期間に、これから4年間を過ごすサークルを決めなくてはなりません。サークルと一口に言っても種類や形態は様々で、同じテニスサークルという括りでも数多くのサークルが存在し、その特徴もさまざまです。そんな中から自分が所属するサークルの一つを決めることはとても難しいことでしょう。

では、現在大学生活でサークル活動を行っている学生は、どのようにして所属するサークルを決めているのでしょうか。私たちはそこに周りの影響力が関係しているのではないかと考えました。そこで、大学生活を大きく左右するであろうこの期間における影響力に着目し、サークルに関するアンケート調査を行うことにしました。アンケート調査を行うにあたり、私たちは以下のような推測をしました。

推測1:入学直後は、多くの学生が「周りの友達があのサークルに入るから、入ってみよう」などと、自分の意思よりも友達の行動など、他人の意思に影響を受けて所属するサークルを決める。

推測2:他人の意思に影響されて決めて入ったサークルでは、活動をする中で、「こんなサークル入るべきじゃなかった」や「本当に大学生活を通してやりたいことはこんなことじゃなかった」など後悔をする学生がいる。

これらの推測を確かめるため、私たちは、現在大学生活においてサークル活動をしている100人に対し、サークルに関するアンケート調査を行いました。

3-2 アンケート内容・結果

私たちは、関西学院大学にて、学生100名に対しアンケート調査を行いました。初めに行った調査は、「サークルに流されて入ったかどうか」でした。その結果は図1のようになりました。

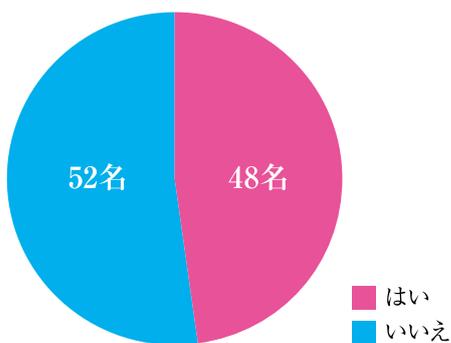
アンケート結果によると、48名の方が周りに影響されてサークルに所属したことが分かりました。大学生活を大き

く左右し得るサークルを決める際、約半数もの学生が周りの意見や行動に大きく影響を受けることが分かります。実際に自由記述でサークルに所属した経緯を伺った際も、「友達に誘われて」という回答が数多く挙げられていました。中には「上級生に勧誘されて新入生歓迎会に行き、気が付けばサークルに所属していた」などの回答もありました。

一方、流されていないと答えた学生は、入学前からある程度入りたいサークルが決まっていたとの回答が多く、周りに関わらず自分の考えをしっかりと持ってサークルに所属していることが分かりました。

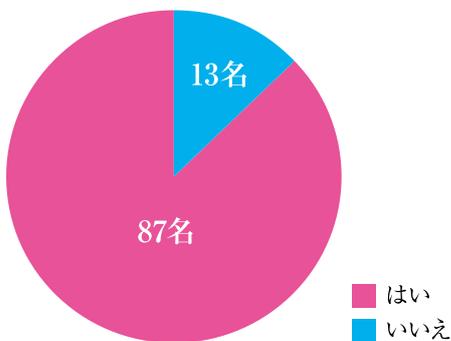
この結果から、自分の意思よりも友達等に影響を受けて所属するサークルを決めるという推測1は正しいことが分かりました。

図1 サークル加入時の他者の影響
流されて入ったか



次に、「そのサークルに所属したことを後悔しているか」を調査してみました。すると結果は図2のようになり、ほとんどの学生が、現在のサークルに所属していることを後悔していないことが分かりました。

図2 流されて所属したことへの後悔
後悔しているか



「もう一度同じサークルに所属するか」という問いも加えてしてみました。やはり、7割近くの方が、「もう一度同じサークルに所属すると」と答えました。ここから、多くの学生は周りに影響を受け、流されてサークルに所属するものの、結果として特に後悔はしていないという結果が得られました。

周りに流されて所属したサークルに対して、後悔をするという推測2は否定されました。

3-3 結果を踏まえて

私たちは、なぜ「流されているが後悔はしていない」という結果になったのかを明らかにするため、流されてサークルに所属した経緯をもつ学生10名に対してグループインタビュー調査を実施しました。「何故、周りの影響を受けて所属したにもかかわらず後悔していないのか」という問いに対し、「流されて所属したものの、結果として視野が広がった」「今まで出会えなかった人たちと交流できた」など、影響を受けたからこそ新しい環境に身を置くことができたといった意見が多く出ました。

このグループインタビューから、周りに影響され流されたからこそその良い面があることが分かりました。「違った環境を体験できる、視野が広がる、様々な人間関係を構築できる、様々な価値観を知れる」。これらが、私たちのアンケート結果から得られた「流されてサークルに所属したが、特に後悔はしていない」という回答の理由ではないかと考えます。

しかしながら、アンケート調査で、他の学生に流されてサークルに所属し、後悔している学生も13名いることが分かりました。自由記述欄に設けた「後悔したエピソード」からは、様々な後悔を知ることができました。「お酒がづらい」や「サークル活動に対する費用がかさむ」「活動が少なすぎる」など、高校生活では経験しなかった大学生活ならではの後悔が数多く挙げられていました。このように、流されて所属したがそのサークルで様々な価値観を知り、良い人間関係が構築できたという学生がいる一方で、あまり考えず流されて所属した為に、人間関係に対して後悔している学生も多かったです。このように、サークルを決める際に同じように流されたとしても、そのことが良い方に転ぶ学生と悪い方に転ぶ学生がいることが分かりました。

Column2

大学生 三種の神器 はこれだ!

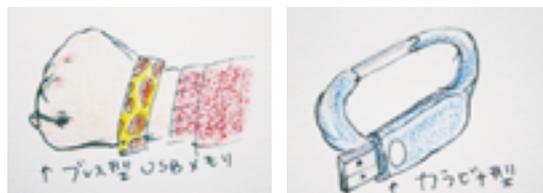
大学生は普段、何を持ち歩いているのでしょうか。大きなリュックにサブバックを併用する大荷物女子から、財布しか入らないのではないかと思うほどの、軽装ショルダーバック男子。さまざまなタイプの大学生が、共通して持っているものとは何でしょうか。それを解明するために、大学生のカバンの中身を見せていただきました。そこから見てきた、大学生の必需品「三種の神器」をここで紹介したいと思います。

〈三種の神器 その1 USBメモリ〉

大学生の筆箱の中に高確率で出現したのが、USBメモリでした。レポートやゼミ活動、論文など様々な場面でパソコンを使う機会が極端に増える大学生。それに伴い、データの管理が重要になってきます。大学生になり、初めてUSBメモリを買う人も多いかと思います。定番の形に加え、最近では、さまざまな形のUSBメモリが発売されています。そこでUSBメモリのタイプを大きく2種類に分け、紹介していきます。既にUSBメモリを持っている方も、これを機に買い替えてみてはいかがでしょうか。

タイプ1:おしゃれUSBメモリ

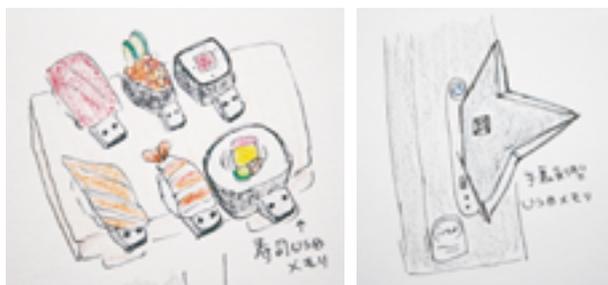
USBメモリの利点は、大量のデータを小型スティックに保存できることです。しかし小型であるが故に、紛失してしまったり、置き忘れてしまったりすることも多いのが難点です。そういったことが起こらないよう、最近ではプレスレットと一体になったものや、カラビナにメモリがついたものが発売されています。持ち運びが便利になっていることも驚きですが、それよりもUSBメモリが、オシャレのアイテムとして取り扱われていることが驚きです。



タイプ2:おもしろUSBメモリ

USBメモリは更なる進化を遂げていきます。自己顕示欲が高まる大学生時代は、どうしても他の学生との差別化を図りたくなってしまいうようです。そんな大学生にぴったりなのが、おもしろUSBメモリです。これらを使用するだけで、パソコンルームのアイドルになること間違いなしです。寿司USBメモリは、おもしろUSBメモリの代表格ともいえるで

しょう。寿司USBメモリを使用することで、日本の持つ、素晴らしい技術力や食文化を周りに伝えていきたいものです。また、USBメモリを挿入することで、手裏剣が刺さったようになるデザインのものもありました。おもむろにカバンから手裏剣を取出し、機械に差し込むその姿は、日本人、外国人問わず、「あいつ、忍者だったのか…!」という強いインパクトを与えることができるでしょう。



〈三種の神器 その2 充電コード〉

かばんの中身を見せていただいた中で、所有率がダントツに多かったのが、スマートフォンの充電コードでした。近年、急速に普及したスマートフォンは、通学時間やちょっとした空き時間を充実させてくれます。便利なあまり、長時間にわたって操作するなど、依存している人も多いのではないでしょうか。しかし、スマートフォンの稼働時間には限界があります。そこでコンセントを見つけたら充電できるよう、充電コードを持ち歩いているのです。「携帯の電池がない」ということは、現代の学生には恐怖であり、実際に大学の教室やラウンジスペースにあるコンセントの差込口は、充電コードで賑わっています。充電できる場所を探し求めて、教室を徘徊している人もちらほら見かけます。



〈三種の神器 その3 持ち運び式充電器〉

出先でスマートフォンの電池が切れそう、でも近くに充電できそうなところも見当たらない。そんな時に、持ち運び式充電器があると便利です。持ち運び式充電器は、形も大きさもさまざま、乾電池式やバッテリー充電式などがあります。最近では、繰り返し使用できるその利便性から、

バッテリー充電式が一般的となっているようです。スマートフォンの電池がなくなることを何よりも恐れる大学生は多く、いどこで電池が切れてもいいように、充電コードとセットで持ち運び式充電器を所持し、電池切れ対策をしっかりとしているようです。

大学生のカバンの中身を見てみると、スマートフォン用充電コードと持ち運び式充電器をセットで持ち歩いている大学生が多いことがわかりました。セットではなかったとしても、必ずどちらかはカバンに入っていたので、スマートフォンが、現代の生活と切り離すことのできない存在になっていることが、よく分かる結果となりました。また、USBメモリは全員が持ち歩いており、筆箱に入れたり、キーホルダーを付けたりと、各自で無くさないように工夫していました。これからは「無くさない」工夫が施されたUSBメモリが、主流になるのかもしれませんが。



第4章

勉強における影響力

4-1 私たちの推測

自分の学びたい学部を決め、必死に受験勉強をして掴んだ大学合格。それぞれが大学生活に希望と期待を抱き入学することでしょう。大学生活はこれまでの高校生活とは違い、あらゆる面で決断をすることになります。例えば学生の本分でもある学習面では、高校のように決められたカリキュラムをこなすのではなく、自分で時間割を組んでいくことになります。では実際に、時間割はどのように組まれていくのでしょうか。大学では、自分が履修する授業を申請する「履修申請期間」が2週間ほど存在し、その期間内に自分自身が勉強したいことを決めなくてはなりません。最初の履修申請期間はサークルと同様、大学1回生の春にあります。また、大学2回生、3回生と大学に慣れてきた時にも同じように履修申請期間が存在します。私たちは、大学生活を通じて関わり続けていく履修申請期間においても、周りに影響を受けるのではないかと考え、アンケート調査を行うことにしました。

アンケート調査を行うにあたり、履修時における影響力について私たちは以下のように推測しました。

推測3:自分のしたい勉強よりも、「友達と一緒に授業に出たいから同じ授業を履修しよう」「友達と同じ授業を取ればノートも手に入るので、この授業にしよう」など、周りから影響を受けて、自分の時間割を決定する。

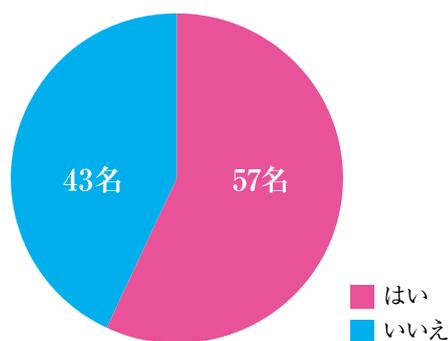
推測4:周りからの影響を受け決めた時間割では、学習していく中で、「こんな授業だとは思わなかった」「大学で学びたかったことはこんなことじゃない」などの後悔をする学生が多い。

私たちは、これら2つの推測を確かめるために関西学院大学の学生100名に対し、アンケート調査を行いました。

4-2 アンケート内容・結果

私たちは、関西学院大学にて、学生100名に対しアンケート調査を行いました。まず、初めに行ったアンケートは、「あなたが研究している内容、また、これまでに履修した時間割は周り(友人など)に流されて決めましたか」でした。結果は図3のようになりました。

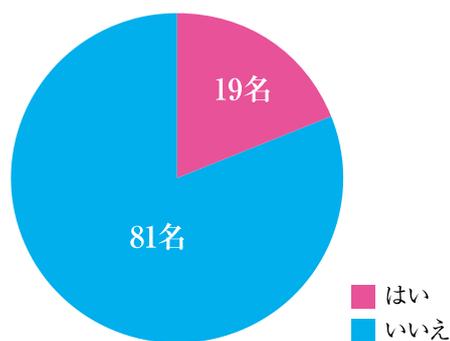
図3 授業決定時の他者の影響流されて決められたか



アンケートによると、約6割もの学生が授業や履修を決める際に、周りの意見や行動に大きく影響を受けていることが分かります。実際に自由記述で「その時間割にした経緯」を伺った際も、「友達が履修するから」「先輩に勧められて」という回答が数多く挙げられていました。中には「先輩からあの授業は簡単に単位が取れるから」という情報を聞いたので、単位欲しさに友達を誘い、履修をした」などの回答もありました。このアンケート結果から、私たちが考えた、時間割を決める際に周りに影響をうけるという推測3は正しいことが分かりました。

次に「これまでの時間割に対して後悔しているか」について調査しました。すると結果は図4のようになり、ほとんどの学生が後悔していないことが分かりました。

図4 流されて授業を決めたことへの後悔後悔しているか



加えて「またその内容、時間割にしようと思うか」と質問したところ、やはり6割近くもの学生が、もう1度同じ履修にすると答えました。

この結果から多くの学生は、友人などの周りからの影響を受け、流されて履修や勉強する内容を決めるものの、特に後悔はしていないという結果が得られました。私たちの考えた、流されて決めた履修に対して多くの学生が後悔しているという推測4は否定されました。

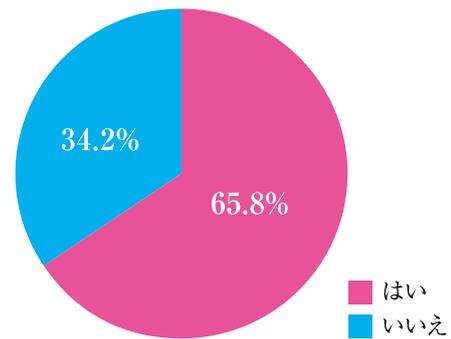
4-3 結果を踏まえて

私たちはなぜアンケートの結果が、「流されて履修を決めたが、後悔はしていない」という結果になったのかを考えてみました。考察するにあたり、私たちは、「その時間割にした経緯」の自由記述欄で数多くあった、「単位が簡単に取れるから」というキーワードに注目しました。

大学を卒業するためには、決められた単位数を4年間で取得しなければいけません。アルバイト、サークル、恋愛、旅行と忙しい大学生はそれらを存分に楽しむ時間を確保するため、周りから聞いた「簡単に単位を取れる授業」を履修することが多いのでしょうか。簡単に単位が取れる授業の情報源は主に先輩や友人です。そうした周りの情報に流されなんとなく履修したとしても、卒業単位を簡単に取得するという目的が達成できているため、特に後悔はしていないというアンケート結果が出たのだと考えました。また同じ授業を履修するかという問いに対して多くの学生がはいと答えた理由も、授業内容はあまり興味のないものであったとしても、単位が取れたので結果としては良かったという一点に尽きるのだらうと考えました。

しかしながら、私たちはこのアンケート結果に対し、それでいいのかという違和感を覚えました。大学生はある程度自由に時間を使ってもいいものと思っています。とはいえっても学生の本分は勉強であり、せっかく大学に通わせてもらっているのに、これでは意味がないように思いました。単位が簡単に取れる、本当にこのような目標のために大学の学習内容を決めていいのでしょうか？

図5 社会人の後悔の有無
大学時代にもっと勉強しておけば良かったと思うか



マイナビニュース会員500名

<http://news.mynavi.jp/news/2013/09/12/073/>

4-4 社会人との対比

「大学時代にもっと勉強しておけばよかった。」こんな言葉をよく社会人の方から聞きます。

実際に、株式会社マイナビの調査結果によると、約7割の方が大学時代にもっと勉強しておけば良かったと答えています。では、大学生である私たちは、現在の履修に全く後悔していないにも関わらず、社会人になるとなぜこんなにも多くの方が後悔するのでしょうか。こちらのアンケートに答えた方に「なぜそう思うか」と聞いたところ、「仕事で英語が必要なので英語をしておけば良かった」「データ処理のための統計学を学んでおけば良かった」などの理由が挙げられました。つまり、社会人の方は仕事を行う際に、もっと勉強しておけば良かったと感じるということです。

大学における学習は、それまでの義務教育とは違い、より専門的になります。学部によっては、学習した内容がそのまま仕事に活かせることもあるでしょう。仕事を始めるにあたって、すぐに活用できるスキルを持っていることは好ましいことです。しかしながら、大学生は単位の取りやすさや友人と共に授業を受けられるかななどを重視しています。つまり目先の利益にとらわれてしまい、学習した内容が身に付いていないため、社会に出た時にそれらを活かすことができないのです。自らの大学生活を振り返った社会人の多くは、まさにこの「長期的視点」に基づく選択を十分行えなかったことを悔やんでいます。以上のことから、大学生にとって重要なのは「長期的視点」であり、大学生と社会人の大学における学習目標の違いが、この後悔の大きな差を生んでいると私たちは考えました。

第5章

私たちの 考え

5-1 私たちの提案

大学生活で大きなカギになる影響力。この影響力をうまく使い大学生活を有意義にする方法として、私たちは「流されることを決断する」という方法を提案します。では、この方法はどのようなものなのか、例を使って説明したいと思います。

はじめに多くの学生が陥りやすい状況、私たちの方法を実践していない場合について説明します。

大学に入学したばかりの太郎君はAのサークルにするかBのサークルにするかとても悩んでいます。ここに友人の花子さんがCに入ろうと勧誘するとします。すると、太郎君はそれまでAとBを熟考していたにも関わらず、花子さんに勧められたという理由だけで流されてCに入ってしまった。実際に私たちの調査では物事を決める時に周りに流される学生が多くいることが3・4章での調査によって分かりました。重要なのは、流されたかと聞かれて「はい」と答えるということは、よく考えないで選んだことの証明になるということです。なぜならば、もしここで、自らでしっかりと長期的視点で考え、下した決断であれば、「流されたか」と聞かれて「はい」とは答えないからです。

この結果、太郎君はCのサークルに入ると自分の状態がどのように変わるのか、長期的視点で熟考していなかったため、後悔する可能性が高くなります。

では、私たちが提唱する「流されることを決断する方法」ではどうなるのでしょうか。

私たちの提唱する方法を実践している太郎君はまず花子さんに勧められたCをAとBと同様一つの選択肢に入れます。そして、そのCの考察の一つとして「花子のオススメ」という風にします。こうする事により、どれに入るべきかC

を含めた形で長期的視点から熟考することが出来、多くの学生が陥りやすい、ただ単に流される事もなくなります。この方法でCを選んだ場合、結果的には前者の例と同じですが、この事前考察のおかげで、アンケートで得られた影響力の悪い点、「こんなはずじゃなかった」と後悔する可能性は低くなります。また、影響力の良い点として得られた「視野が広がる」というのは、その新しい分野で、ある程度の努力や継続をしてこそ手に入ることです。この点においても、この方法でのCに入るということは太郎自身の決断であり、単に流されることに比べて、そこで頑張ろうという気持ちも芽生えます。このことにより、良い点を楽しむ確率も高くなります。

また、仮にこの状態の太郎君に3章で聞いたような「サークルに流されて入りましたか」と聞くと、おそらく「いいえ」と答えるでしょう。なぜなら、太郎君はこの決断を自らの熟考の基で下したわけであり、花子さんを参考にはしたものの、流されてはいないからです。このことから、3・4章のアンケートで「流された」と答えた多くの学生は、私たちの方法を実践していないことが分かります。つまり、この方法は新しい方法であり、効果的な方法であると言えます。

これが、私たちの提唱する「流されることを決断する」という提案であり、影響力の良い点を大きく享受し、悪い点を無くす、誰にでもあてはまる学生生活を有意義に過ごす方法です。

5-2 おわりに

これまでの章を読んでみて、大学生活をどのように感じましたか。指標がない大学生活に対して、少し不安を持たれた方もいるのではないのでしょうか。実際に私たちも、大学という未知な環境へ進むときは、何も分からずに不安ばかりが募り、影響力に翻弄されていたこともありました。それと同じように、何も分からないまま周りに影響され、流されてしまっている学生を、今回のアンケート調査で何度も目にしました。しかし、影響されること自体は必ずしも悪いことではなく、流されたけれども結果的に良かったと答える学生も数多くいました。

これから皆さんは大学生活において、様々な選択をするときが来るでしょう。そのときにこの本で得た知識が、少しでも皆さんの手助けになればと思います。またそれによって皆さんの大学生活がより有意義なものになれば、大変嬉しく思います。

1からシリーズ

- | | | | |
|---|---|---|---|
|  1からの流通論
石原武政・竹村正明 (編著) |  1からのマーケティング (第3版)
石井淳蔵・廣田章光 (編著) |  1からの戦略論
嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎 (編著) |  1からの会計
谷武幸・桜井久勝 (編著) |
|  1からの観光
高橋一夫・大津正和・吉田順一 (編著) |  1からのサービス経営
伊藤宗彦・高室裕史 (編著) |  1からの経済学
中谷武・中村保 (編著) |  1からのマーケティング分析
恩蔵直人・富田健司 (編著) |
|  1からの商品企画
西川英彦・廣田章光 (編著) |  1からの経営学 (第2版)
加護野忠男・吉村典久 (編著) |  1からのファイナンス
榎原茂樹・岡田克彦 (編著) |  1からのリテール・マネジメント
清水信年・坂田隆文 (編著) |
|  1からの病院経営
木村憲洋・的場匡亮・川上智子 (編著) |  1からの経営史
宮本又郎・岡部桂史・平野恭平 (編著) | | |

碩学叢書

- | | | | |
|---|--|---|--|
|  マーケティングクリエイティブ (1巻)
石井淳蔵・大西潔 (編著) |  病院組織のマネジメント
猶本良夫・水越康介 (編著) |  百貨店のビジネスシステム変革
新井田剛 (著) |  国際マーケティング
小田部正明、K・ヘルセン (著)
栗木契 (監訳) |
|  メガブランド
張智利 (著) |  [新訳] 事業の定義
デレク・F・エーベル (著)
石井淳蔵 (訳) |  セールスインタラクション
田村直樹 (著) |  ことばとマーケティング
松井剛 (著) |
|  新しい公共・非営利のマーケティング
水越康介・藤田健 (編著) |  企業変革における情報システムのマネジメント
依田祐一 (著) |  よみがえる商店街
畢滔滔 (著) | |

碩学舎ビジネス双書

- | | | | |
|---|--|--|---|
|  商業・まちづくり口辞苑
石原武政 (著) |  ビジョナリー・マーケティング
栗木契・岩田弘三・矢崎和彦 (編著) |  旅行業の扉
高橋一夫 (編著) |  コトラー8つの成長戦略
フィリップ・コトラー / ミルトン・コトラー (著)
嶋口充輝、竹村正明 (監訳) |
|  寄り添う力
石井淳蔵 (著) |  グローバル・ブランディング
松浦祥子 (編著) | | |

SBJ 碩学舎ビジネス・ジャーナル

<http://www.sekigakusha.com/sbj/>



vol.1
 商業を捉える論理
 石原武政・水越康介・西川英彦



vol.2
 「創造的瞬間」とは何か？
 石井淳蔵・水越康介・西川英彦



vol.3
 マーケティングの論理
 嶋口充輝・水越康介・西川英彦



vol.4
 事業の定義復刊の意義
 石井淳蔵



vol.5
 欲望とは何か
 田中洋・水越康介・西川英彦



vol.6
 データをマッサージする
 中西正雄・川上智子・石淵順也



vol.7
 日本の管理会計：
 「数字へのこだわり」とインターアクション
 が創造性を生み出す
 谷武幸・窪田祐一・廣田章光



vol.8
 碩学アーカイブ 石原武政-1
 石原武政



vol.9
 碩学アーカイブ 石原武政-2
 石原武政



vol.10
 碩学アーカイブ 石原武政-3
 石原武政



vol.11
 日本のコーポレート・
 ガバナンスを問う
 加護野忠男・山田幸三・吉村典久



vol.12
 碩学アーカイブ 石原武政-4
 石原武政



vol.13
 『1からの病院経営』
 刊行にあたって
 木村憲洋・的場匡亮・川上智子



vol.14
 『セールスインタラクション』の
 刊行にあたって
 : 営業が生み出す消費欲望とは？
 松井剛



vol.15
 碩学アーカイブ 石原武政-5
 石原武政



vol.16
 『新しい公共・非営利のマーケティング』
 の刊行にあたって
 水越康介・藤田健



vol.17
 第1回碩学舎賞奨励賞受賞作
 「日本企業の多角化と企業価値に
 関するパネルデータ分析」
 池田雄哉



vol.18
 第1回碩学舎賞奨励賞受賞作
 「後発企業のネットワーク戦略
 -北海道におけるワイン・クラスターの
 競争逆転-」
 長村知幸



vol.19
 碩学アーカイブ 石原武政-6
 石原武政



vol.20
 消費者行動研究と戦略論をつなぐ
 和田充夫・新倉貴士・水越 康介



vol.21
 最終講義
 「マーケティングと消費者行動」
 池尾恭一



vol.22
 1からの経営学部
 伊藤貴晃・岸本のぞみ・久野恵理子
 (法政大学経営学部 西川英彦ゼミ
 チームローニーズ)



vol.23
 『よみがえる商店街
 : アメリカ・サンフランシスコ市の経験』
 刊行にあたって
 畢滔滔



vol.24
 『寄り添う力
 : マーケティングをプラグマティズムの視点から』
 刊行にあたって
 石井淳蔵



vol.25
 1からの学生生活
 坂田葉・上田将迪・中野海地
 (関西学院大学 石淵順也ゼミ
 チームSUN)



Sカレ

Student Innovation College

Sカレは、実際に商品化を目指す、28大学横断の商品企画プロジェクトです。
「Student Innovation College」"Sカレ"は、教室でマーケティングを学ぶ学生たちが、
「ビジネス・モノづくり・発想力」をリアルな現場で学びます。

Sカレサイト <http://s-colle.ws.hosei.ac.jp/>

SBJ-碩学舎ビジネス・ジャーナル- vol.25 (2014年6月23日発行)

碩学舎×Sカレ「1からの学生生活」

関西学院大学 石淵順也ゼミ チームSUN

坂田 栞・上田 将迪・中野 海地

Online edition : ISSN 2187-0845

碩学舎の会員になりませんか？

碩学舎の教員会員ページでは、大学・専門学校の教員の方へ向けて「1からシリーズテキスト」を使った講義に役立つ資料や情報をお届けしています。

※教員会員ページにはログインが必要です。教員会員資格は、大学・専門学校の教員および博士課程の大学院生の方に限ります。

株式会社 碩学舎
Sekigakusha

〒101-0052
東京都千代田区神田小川町2-1 木村ビル10F
フリーダイヤル 0120-778-079

碩学舎公式サイト
<http://www.sekigakusha.com>
Facebook
<https://www.facebook.com/sekigakusha>